

議題	第3回運営推進会議
日時	2025年11月27日(木) 10:30~11:15
場所	デイサービス井福来
出席者	(順不同敬称略) 錦田地区地域包括支援センター U様 利用者様ご家族 K様(ご主人)、N様(ご主人)、S1様(妻)、S2様(妻) E様(O様娘) デイサービス井福来 センター長 W1、統括 W2、管理者 U (議事録作成者) W1 (議事進行者)W2
会議の詳細	
<p>● ごあいさつ (統括 W2) ~出席者のご紹介、本会議の趣旨(目的)について~</p> <p>【会議の目的について】 W1 地域密着型の介護事業所である「デイサービス井福来」において、地域住民や利用者家族、ケアマネジャー、地域包括支援センター職員などの関係者が一堂に会し、事業所の運営状況について報告を受けるとともに、利用者本人や家族の声を直接伺い、今後のサービス提供の在り方や、地域との連携・協力体制の強化について意見交換を行うものです。 本取り組みは、制度上も年2回程度の開催が求められており、透明性のある運営と地域住民の信頼確保を目的として実施されています。</p> <p>【事業所からの報告】 デイサービスいぶきは、昨年6月に開設し、現在開設から1年半が経過しました。定員は1日あたり12名であり、利用者の多くは要介護1~2の認知症の高齢者です。 事業所では、「少人数制」「家庭的な雰囲気」「個別性の尊重」を基本方針として掲げ、利用者一人ひとりの状態や希望に応じた支援が行われています。</p> <p>市内にはグループが運営するデイサービスが3か所あり、それぞれの事業所間で職員の交流や情報共有、共同イベント等を通じて、支援の質の向上を図っています。</p> <p>事業所の活動として、庭の畑での野菜づくり、敷地内でのお茶会、季節ごとの行事(花見・夏祭り・運動会等)を開催し、利用者にとっての生活リズムや役割意識の維持に寄与してきました。特に「山桃ジャム作り」「梅シロップの仕込み」など、昔の生活を思い出すような活動が好評で、食の楽しみや五感への刺激にも繋がっています。</p> <p>利用者の中には、元職人や家庭での家事経験が豊富な方もおり、「サンマを捌く」「包丁を研ぐ」「ビーズ手芸」「書道」などを通して得意なことを発揮しながら日常に彩りを加えています。</p>	

また、若年層職員の確保にも注力しており、20代から50代までの幅広い年齢層の職員が在籍し、各種連携の中で個別ケアを実施しています。資格取得の奨励や外部研修への積極的な参加も行っており、人材の専門性と定着率の向上を両立するように努めています。

運営においては、昨年度の移転や設備更新に伴う費用増はあったものの、今年度は黒字決算となり、行政の運営指導にも適正運営との評価を受けました。

【話し合われた内容・ご意見】

【利用者ご家族】

在宅介護において、認知症による「幻視」「物盗られ妄想」「同じことを繰り返し尋ねる」といった症状への対応に困難を感じている家族が多く見受けられました。

一方で、最近では介護者側に焦点を当てた書籍や実用書も増えており、それらの助言を実践することで「否定せず共感する対応」「視点を変えて返す工夫」が効果的であると気づいたという声もたくさんありました。例えば「猫が見える」という発言に対しては「どんな猫？色は？」と受け入れるようにし、本人の不安を和らげる手法が紹介されました。

また、在宅で24時間介護を続ける上で、介護者自身の心身の健康維持が極めて重要であり、「自由時間の確保」「適度な外出」「趣味活動の継続」が共通の課題であると同時に各々が工夫をしながら生活していることも伺うことが出来ました。

【事業所職員】

認知症の進行には個人差があるが、一般的には10年くらいの期間の中で少しずつ進行していきます。軽度→中等度→重度と変化していく過程を図で示した資料も配布しました。

事業所職員からは「今どの段階にいるのかを把握することが、適切な対応と支援計画の立案に繋がりやすい」との共有をしました。デイサービスを活用することで得られる刺激が、在宅での生活にも好影響をもたらすとの評価もいただきました。

【地域包括支援センター】

三島市で発行している「認知症ケアパス」について、まだその存在自体を知らない市民が多い現状を踏まえ、次年度（令和8年度）の改訂にあたっては、利用者本人・家族の声を積極的に反映させるべく、アンケートを実施中であることが報告され、今回参加くださったご家族からもアンケート協力をいただきました。

家族からは「こうした資料(ケアパス)の存在は、認知症になる前のもっと早い段階で知らされるべき」「病院に相談しても十分な説明が得られない」という率直な声も上がり、情報提供の在り方や医療機関との連携体制に関しても検討課題として共有されました。

【まとめ】

【利用者家族】

日々の介護において、精神的負担や身体的疲労が蓄積していく中で、デイサービスでの活動が本人の楽しみになるだけでなく、家族自身にとっても息抜きや安心材料となっている。特に、本人が帰宅後に「今日はこんなことをした」と嬉しそうに語る姿を見ることで、家族の気持ちも明るくなり、「ここを選んで良かった」との声が多く聞かれました。今後も、こうした意見交換の場が定期的に設けられることを望む意見もありました。

【事業所】

認知症ケアにおいては、進行段階を見据えた先回りの支援計画、家族への情報提供、各種連携強化が不可欠であると再認識しました。今後も利用者ごとのニーズや生活背景を踏まえた支援を丁寧に構築していきます。

これまで以上に「個別性を尊重したオーダーメイドの支援」「地域資源を活用した交流」「職員の専門性とモチベーション向上」に注力し、家族の声に耳を傾けながら、地域密着型の在り方を継続的に深化させていきます。ご家族との連携は、事業所の質を高める最も重要な要素であるため、今後も開かれた運営を続けていきます。

センター長 W1

本日は、お忙しいところありがとうございました。介護者様の貴重な意見を聞いて本当によかったです。また半年後に機会がありますので、気分転換でもかまいませんので、ご出席いただき話を聞かせてください。